

# 斜入透視に寝台昇降, ペインクリニックにはFLEXAVISION 以外は考えられませんね



院長 古城 繁 先生

## 「治療に使える」という点を重視して検討

透視下でブロックを行うことが非常に多いため、斜入での透視が行えることを第一の条件に寝台昇降も行える『治療に使える X 線テレビ』を探していました。他メーカーの装置も検討しましたが、余計な機能を搭載しすぎている上、占有面積も大きく危険区域も広く取る必要があり価格も高い。治療に必要な機能が搭載されているながらコストパフォーマンスが一番いいのが FLEXAVISION だったのです。デザインもすっきりしていて威圧感がない点もいいですね。

## ポ ジョニングが容易で、治療もスピードアップ

当院では、1日20~30症例を行っているファセットブロック（椎間関節ブロック）をはじめ、神経根ブロック、椎間板加圧注入、交感神経ブロックや、頸部の上顎/下顎神経ブロックなど多岐にわたって FLEXAVISION を活用しています。このような治療を受ける患者さんはもちろん痛みがあるため来院されるのですが、従来は治療をしやすくするため患者さんには無理な姿勢をお願いしていました。FLEXAVISION では斜入透視が行えるので、患者さんの負担にならない一番楽な姿勢で、装置を自由にポジショニングしてこちらが見やすい位置で治療を行えます。患者さんに動いてもらう姿勢を維持してもらうには大変時間がかかります。FLEXAVISION は患者さんに負担がかからないためそれが治療のスピードアップにもなります。早いケースでは1分ほどで治療を終えています。



## ターゲットを確実に捉える

斜入機能がなければ手技に踏み切れない可能性もあります。上顎神経ブ

ロックなどはこの機能がなければ頭蓋底からの神経を見ることはできませんから。骨の状態が悪い場合のラインの確認や腸管ガスとの重なりを避けることもでき、また非常に変形が強い患者さんの場合は、入斜角度を変えながら透視をすると立体的に把握することもできます。

## 安 全性・成功率にも影響する斜入機能は搭載するべき

ブロックなどの治療は一步間違えると、腰椎麻痺や頸椎の場合は息が止まるなど危険な状態になりかねません。だからスピーディーかつ確実に安全に治療をしなくてはなりません。そのためにも斜入機能はどうしても必要でした。特殊なブロックでも斜入機能のある・なしでは難易度と安全性が全然違いますね。年に数回しか使用しなくても斜入機能は搭載するべきだと思います。安全性や患者さんの負担、成功率も違ってきますから。

## 寝 台昇降機能はメリットあり

昇降機能があるので、手技をしやすい高さに寝台を調整し治療を行っています。車椅子やストレッチャーで来院されたり、神経根ブロック後はストレッチャーで帰られる患者さんも多いので、昇降があるのとないのとでは随分と違います。治療時は寝台を立てることがないため手すりを取り払っているのですが、治療後ストレッチャーに移動してもらう場合も、寝台高さをストレッチャーに合わせて横たわった状態で水平移動してもらっています。寝台昇降機能により患者さんを持ち上げる必要がなくなりました。

## 少 ない線量で納得のいく透視

現在、開院して1年足らずで2,500症例ほど撮影をしています。以前使用していた X 線テレビに比べ画像是格段にいいです。腰椎の透視では患者さんの被ばくを考慮し、線量を極力落としています。納得のいく画像が得られています。

導入を  
お考えの先生への  
一言

斜入透視ができ、昇降機能により寝台も低い位置まで下がる。その上コストパフォーマンスに優れている。ペインクリニックにとってはこの装置以外考えられないですね。